

## 【22\_324技術系メルマガ】『傾向』と『対策』（MAあるある検証例）

〇〇さん

こんにちは！クロガキ(クロ)です。

週末で検証励んでいる方も多いかと思いますが、僕が主力武器のひとつとしているMAについて  
検証中の皆さんからよくもらうことが多いお悩みの中から

「確かに、割とこれはあるあるだよね」というテーマをピックアップしてみようと思います。

普段MAをあまり使っていない人にとっては、ちょっと退屈な話になってしまうかもしれませんが  
たまにはテクニカル的な話も良いかと思うので、よろしくお付き合いください。

### □ └─ MAあるある:実体抜けたらどうするか？問題

これこそ、人によって判断基準があ変わってくる話ではありますが

自分が意識しているMAに対して、ローソクの実体が抜けてしまった時

それをブレイクとみなすか？オーバーシュートとみなすか？

と聞かれたら、皆さんはどう判断するでしょうか？

例えば、僕の型をベースにして議論するとして

M15足/40-50MA もしくは M5/100MA のいずれかを突破されたときを想定して

その時に型としてのセットアップが崩壊したと解釈するか？ と考えると、もう少し具体的に考えられるでしょうか。

▼チャート例▼

[https://kuro-gaki.com/muhai\\_saisoku/chart/2022-11-20.png](https://kuro-gaki.com/muhai_saisoku/chart/2022-11-20.png)

これは、僕が最近トレード(GBPJPY ショート)した事例ですが

見て分かる通り、思い切りM5/100MAは上に貫通していますが、H1/20MAとM15/40-50MAには、上値を止められて結果下落しています。

これはあくまで、僕のこれまでの検証とテストの結果で許容している判断基準ですが

M5足の100MAに到達する付近でプルバックが終了する というのは、あくまでも『割とその傾向にある』というだけであり

値動きの仕方によっては、M15/40-50MAと位置が大きくズれてパターンが発生する場合もあるし

それをどこまで許容するかによって、勝率・エントリー頻度が変わります。

あまり条件を絞り過ぎてエントリー回数が激減しても、それではトレードの原則である『試行回数によってトータルで勝つ』ことが出来なくなってしまいます。

なので、常にベストなシナリオに固執するのではなく、どこまで『不確定な要素』を許して

エントリー条件の範囲内とするかを決める必要があります。

これに精度を持たせる(試行回数を増やしても、トータルの利回りがプラスになる)要素が

多量の検証母数となるわけです。

今回の事例を基に検証テーマを考えるだけでも、色んな場合分けができます。

前提: エントリーのセットアップは、M15/40-50MA + M5/100MAタッチ

<検証条件>

- ・M15/40-50MAを実体で抜けた場合の、目線方向に値が伸びる確率
- ・M5/100MAを実体で抜けた場合の、目線方向に値が伸びる確率
- ・そもそも、MAタッチが連動しない(上のチャート例)ケースが、過去にどれだけあるか？

僕だったら、これらの条件で過去チャートを洗い直し、最低でも100以上は事例を確認します。

もし、その条件に適合したチャートが100も見つけれない(精々20~30程度)のであれば

そのケースはそもそも、イレギュラー(だから、気にしてもしょうがない)ということなので

今後はそこまで分析する際に意識する必要がないと分かりますよね。

こんな感じで、生じた疑問を具体化し、その条件を『見送り or エントリー』どちらの判断基準に組み込むかを

検証結果から明らかにしていく。

この作業を繰り返すことで、結果として精度を維持しながらチャンスを増やしていくことができます。

この、一見気が遠くなりそうな地道な作業を日々繰り返すのが

僕の“仕事”だと思っているし、ここまでやるからには最終的に、それ相応の結果となって帰ってくるのです。

どこまでやるかは、トレードに対して求めるものによっても変わってきますが

収益源として確立された技術を身につけたいと思う人は、是非この考え方を理解してほしいと思います。